

## プロゼミナールの目次 (2018年度入学生用)

海野 ……	1	福村 ……	2	星野 ……	3	持田 ……	4
井上(善) ……	5	嘉本 ……	6	塩谷 ……	7	繁本 ……	9
向 ……	11	朴(鏡) ……	12	松岡 ……	13	宮脇 ……	14
安井 ……	15	渡邊 ……	16				
金澤 ……	17	西成 ……	18	古川 ……	20	水野 ……	21

ナンバリングコード B4ECN-bacE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313526) プロゼミナール (海野) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 海野 晋悟	関連授業科目	マクロ経済学I・II、金融論、財政学、経済政策	
	履修推奨科目	マクロ経済学I・II、金融論、財政学、経済政策、統計学、計量経済学	
学習時間 講義90分×15回			
<b>授業の概要</b> 今年2019年4月末で「平成」が終わり、新元号になります。「平成」の30年間の経済上の出来事をあげることはできますか、またそれを丁寧に説明できますか？この演習では、平成の30年間の日本経済がどういう状態だったのかを、学習するために、戦後の日本経済から辿って学習します。学生の皆さんが今生きる平成から新元号と、皆さんの両親の学生時代の経済、祖父母の学生時代の経済を知り、比較しましょう。学習のとき、経済データを用いると、現在と当時を比較しやすくなります。比較した際に、違いが生じていたり、同じだったりした場合にはその理由を分析します。			
<b>授業の目的</b> ＊日本経済の変化の歴史を学習し、現在の日本経済に興味をもち、理解する ＊経済データの定義、性質などを理解する ＊データを用いて、その変化の背後にある要因を見出し、論理を構築する			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
＊「高度成長」、「バブル」、「バブル崩壊」等の時代の総称を説明できるようになる ＊経済データの定義、性質を説明できるようになる ＊論拠を示し、参加者に論理的に説明できるようになる			
<b>成績評価の方法と基準</b> ＊演習時間中の発言25%、プレゼン・討論等のパフォーマンス25%、課題25%、期末レポート25% ＊やむを得ない場合を申告しない限り、遅刻・欠席は減点です			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 授業は受講生による講義担当者による簡単な講義、学生による報告、質疑応答、討論を中心とするゼミ形式で行われます。受講生には出席だけでなく、毎回の事前準備と授業中の積極的な発言が求められます。			
第1回 ガイダンス1 (自己紹介など) 第2回 ガイダンス2 (報告の作法・ハンドアウトの作成方法など) 第3回 日本経済新聞の読み方 第4～7回 日経記事紹介 (全員制) 第8～13回 テキスト報告 (担当制) 第14、15回 個別テーマ報告  報告の際は、他の受講生の質問に (できるだけ) 答えられるよう、内容を理解していることが求められます。報告の準備の際、少しでも疑問のある箇所が出てきたならば、それらは事前にきちんと調べて解決しておきましょう。			
<b>教科書・参考書等</b> 坂井豊貴、NHK「欲望の経済史 日本戦後編」制作班 「NHK欲望の経済史 日本戦後編 年表とトピックでいまを読み解く ニッポン戦後経済史」 2018 NHK出版			
オフィスアワー 火曜日2時限目を設定していますが、それ以外を希望する場合は、連絡を入れて予約を取ること。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 積極的な発言を歓迎します。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313527) プロゼミナール (福村) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 福村 晃一	関連授業科目	公共経済学、地域経済学、国際経済学、 経済政策	
	履修推奨科目	ミクロ経済学I、マクロ経済学I	
学習時間 授業90分×15回+予習・復習・報告準備などの自学自習			
<b>授業の概要</b> 経済学の応用分野である、都市・地域経済学における様々な理論上の概念や、地域の多様なデータについて、受講生同士が互いに協力しながら、教科書の輪読を通じて学習する。昨今地方自治体は、特色ある様々な政策を企画・立案・推進している。そして、それらの政策は経済学の観点から分析・評価されている。その際に必要な経済学の理論モデルやデータの取り扱い方を、教科書の輪読を通じて学習する。			
<b>授業の目的</b> この授業を受講することにより、都市や地域に関係する政策と関わるうえで必要な基礎的な知識・考え方・データの取り扱い方を、受講生が互いに協力しながら習得することが目的である。(DPの知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
都市・地域経済学に関連して、次の3つの技能を習得することである。まず、様々な経済データを正確に解釈・運用できるようにする。次に、理論的概念を理解し、現実の経済現象に当てはめて説明できるようにする。以上を踏まえて最後に、現実の様々な問題を解決する方策を考えられるようにすることである。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 次の方法を組み合わせて評価する。 議論への参加 (30%)、報告 (50%)、期末レポート+その内容の報告 (20%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【講義の方法】</b> 以下の授業計画に基づいて教科書の輪読を基本とした授業を行う。なお、計画が変更される場合があるが、その際は周知する。 <b>【授業計画】</b> 1. 授業の概要説明、イントロダクション、担当決め 2. ～13. 担当者による報告 14. 期末レポートの報告 15. 講評・まとめ <b>【自学自習について】</b> 担当者は、報告する章を他の受講生と意見交換しながら、報告資料にまとめる。担当者以外の受講生は、その章に事前に目を通しておく。理解を深めるには、社会で今問題になっていることと、それを解決する方策について関心を持つことが重要です。			
<b>教科書・参考書等</b> 「都市・地域経済学への招待状」(有斐閣ストゥディア)、佐藤泰裕(著)、2014年、有斐閣(1800円+税)を輪読する。そのため、教科書の入手が必要である。			
<b>オフィスアワー</b> 初回時に連絡します。質問がある場合は、内容を具体的に、もしくは事前にメールで連絡する、などしてもらえれば、よりの確に回答できると思います。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 大学でのゼミでの教科書の輪読は、講義とは異なり、受講生の主体性が重要です。			

ナンバリングコード B4ECN-abcE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 313512) プロゼミナール (星野) Pre-Seminar 論理の基礎と活用	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 論理的思考は、経済に関わる現象や問題を大学で専門的に考える際に必要不可欠です。そこでこの授業では、論理の意義、仕組み、そして使い方をゼミ形式で学習します。経済、大学生生活、地域社会を素材にして、論理的思考のあり方を示す例文（推論の例）を考案します。			
<b>授業の目的</b> 課題を発見し、探求するための論理的思考能力を高めるための土台として、論理の基礎を知り、自ら活用できる力を養うことを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理の意義や仕組みを説明できる。</li> <li>・論理の基礎を活用できる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 参加態度・発言内容 (50点)、報告内容 (25点)、期末レポート (25点)、計100点満点で評価します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 授業は受講生による報告と質疑・討論を中心とするゼミ形式で行われます。受講生には出席だけでなく、毎回の事前準備と授業時間中の積極的な発言が求められます。			
第1回 ガイダンス1 (自己紹介と担当決め) 第2回 ガイダンス2 (レジュメ作成) 第3回 主張相互間の関係 第4回 暗黙の前提 第5回 論理力トレーニング1 (「ならば」と「または」) 第6回 論理力トレーニング2 (「すべて」と「ある」) 第7回 経済と論理に関わる映像教材の視聴とグループ討論 (1) 第8回 論理力トレーニング3 (妥当性の証明) 第9回 論理力トレーニング4 第10回 推論と推測、演繹と帰納 第11回 知識成長・改善と論理 第12回 問題解決と論理 第13回 論述文と論理 第14回 経済と論理に関わる映像教材の視聴とグループ討論 (2) 第15回 まとめ ※受講者人数や進行状況により、内容を一部変更・省略する場合があります。			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告担当者は、テキストの担当範囲を箇条書き形式でまとめた説明資料を作成して、報告前日までファイルを提出します。そして後日、報告時の質疑・討論を参考に、説明資料を改訂して再提出します。</li> <li>・担当者以外のメンバーもテキストを予習して、自分の意見や疑問を整理しておきます。</li> </ul>			
<b>教科書・参考書等</b> 以下の文献をテキストとします。受講生は生協で各自購入してください。 ・内田詔夫 (2012)『論理の基礎と活用』北樹出版。2000円+税。			
オフィスアワー 木曜日4時限目 (予定)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席は厳禁です。</li> <li>・携帯電話など当面の授業と関係のない持ち物はカバンに入れて机の上に置かないこと。</li> </ul>			

ナンバリングコード B4ECN-bacE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 313524) プロゼミナール (持田) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期木5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 英語文献を題材に、経済学全般やマクロ経済学の基本部分について理解を定着できるよう、輪読形式で授業を進めます。 授業は日本語で進めますが、受講する上では、ある程度の英語能力(英語文献を直訳ではなく、日本語として違和感のない形に翻訳できるレベル)とマクロ経済学Ⅰの基本的知識が求められます。			
<b>授業の目的</b> 経済学の基本的知識、考え方を身に付けると共に、英語文献を題材とすることで、外国語能力の向上と国際的視野を広げることを目的としています。  また、3年次「演習」の前段階として、各自の担当箇所を念入りに発表準備すること、聞き手にわかりやすい報告を工夫し、心がけること、授業内で自分の意見をしっかりと発言できるようになることetcの重要性を認識し、少人数集団で一緒に学習していくことの楽しさを学ぶことで、受講生たちが次年度以降、それぞれのゼミナール運営に意欲的に貢献できるようになることを目指しています。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語テキストの内容を正確に読み取り、他者にわかりやすく伝えることができる。</li> <li>・現代社会の諸問題について、経済学の知識に基づいた客観的解釈ができ、それをわかりやすく他者に伝えることができる。</li> <li>・基本的なマクロモデルの知識を身に付け、他者にわかりやすく説明することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への参加態度、発表内容、課題レポート等について総合的に判断します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 授業はゼミナール形式で行います。 毎回、授業の最初に報告担当(グループor個人)がテキスト内容について発表し、報告内容に沿って参加者全員で確認し合いながら理解を深めていきます。  第1回 授業のガイダンス 第2～第13回 テキスト報告、マクロ経済学の演習、学部共通講演会(キャリア関係) 第14回～第15回 授業のまとめ			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書: Mankiw "Principles of Economics" の一部。こちらで準備しますので、購入の必要はありません。 参考書: マクロ経済学のテキスト、英語の辞書			
<b>オフィスアワー</b> 初回の授業でお知らせします。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ※ゼミナール形式の授業ですので、下記の要素が必要となります。 ・他の受講生と協力して、発表準備ができること ・他の受講生の発言や意見を尊重しながら、自分の考えについてもしっかりと発言できること ・遅刻、無断欠席をせず、スムーズな「演習」運営に協力、貢献できること  ※英語に苦手意識があっても、受講の意欲があり、毎週4時間(修学案内参照)以上の自主学習をコンスタントにこなせる人は、授業内でも配慮しますので、ぜひチャレンジしてください！			

ナンバリングコード B4BSN-bcxE-30-Lp2 授業科目名 (時間割コード: 323547) プロゼミナール (井上善) Pre-Seminar 財務諸表の読み方を学ぶ	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lp	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	簿記入門 会計学総論 株式会社社会 監査論	
	履修推奨科目	簿記入門 会計学総論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 財務諸表から企業の状況(収益性・安全性・成長性等)を読みとれる能力を養う。			
授業の目的 財務諸表の構造と内容を知ることを通して企業の状況(収益性・安全性・成長性等)を読み取ることができるようになる(知識・理解, 問題解決・課題探究能力)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
財務諸表の構造と内容を知ることを通して企業の状況(収益性・安全性・成長性等)を読み取ることができる。			
成績評価の方法と基準 プレゼンテーションの内容・レポートの内容・議論への参加の程度を総合的に勘案して成績を評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 ガイダンス 第2回～3回 損益計算書の話 第4回～5回 貸借対照表の話 第6回～7回 キャッシュ・フロー計算書の話 第8回～9回 収益性分析 第10回～11回 安全性分析 第12回～13回 成長性分析 第14回 問題演習 第15回 総括			
予習復習を怠らないこと。なお, 受講生の理解度を考慮して授業計画をやむを得ず変更することがある。			
教科書・参考書等 佐伯良隆『2時間で決算書が読めるようになる(改訂版)』高橋書店, 2018年, 1,300円(購入必須)			
オフィスアワー 授業終了後随時受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席厳禁。討論への積極的な参加が要求される。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 323559) プロゼミナール (嘉本) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 嘉本 慎介	関連授業科目	経営財務論	
	履修推奨科目		
学習時間 授業時間 90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では、証券投資や経営財務に関する問題を分析するファイナンス理論を学習する上で必須となる「お金の時間価値」についてその概念と評価法を学習してもらう。そして、それらを踏まえて債券の価格評価に関する基礎理論を学習してもらう。 ファイナンス理論に関するテキストを指定して報告箇所を受講者に割り当てるので、割り当てられた箇所の内容をまとめた資料を作成し、それについて詳しく報告してもらう形式で授業を行う。報告者以外の受講者にも発言を求めめるので、授業前までにテキストを読むなどの予習を求めめる。さらに、学習した内容に関する理解を深めるため、定期的に宿題に取り組んでもらう。			
<b>授業の目的</b> 問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力の育成を目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
専門分野の基礎に関わるレジユメないしレポートを書くことができる。 専門分野の初歩的なプレゼンテーションができる。 専門分野の初歩的な討論ができる			
<b>成績評価の方法と基準</b> 試験・課題レポート・授業への取り組み態度で評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回目の授業でファイナンス理論に関するテキストをこちらで指定するので、受講生にそのテキストの割り当てられた箇所についてあらかじめ資料を作成して授業中に詳しく報告してもらう形式で授業を進めていく。  第1回目 債券の特徴と国債の発行市場に関する講義 第2回目～第14回目 プレゼンテーション 第15回目 試験  ただし、授業の進行状況や受講生の理解度に応じて、こちらで補足説明や内容の解説を行う授業を設けることがある。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書 『現代ファイナンス理論入門 第2版』 仁科一彦 (著) 『コーポレートファイナンスの原理第9版』 大野薫 (訳) 『コーポレートファイナンス入門編第2版』 久保田敬一他 (訳) 『コーポレートファイナンス第10版 (上)・(下)』 藤井真理子・国枝繁樹 (訳)			
<b>オフィスアワー</b> 木曜日18:00～19:30			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> この授業は、受講者の積極的な参加のもとで成り立つ授業である。したがって、報告者以外の受講生も毎回、講義前までにテキストを読むなどの予習と授業への積極的な発言などによる参加が求められる。受講生には、自分の意思で受講を願いでて演習に参加していることを自覚することを求める。 また、無断欠席・遅刻・授業中の迷惑行為等には厳しく対処する。			

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323567) プロゼミナール (塩谷) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 塩谷 剛	関連授業科目	経営戦略論A/B、経営組織論A/B、 イノベーション論、計量経済学 I / II、 経営統計学、調査データ分析	
	履修推奨科目	経営戦略論A/B、経営組織論A/B、 イノベーション論、計量経済学 I / II、 経営統計学、調査データ分析	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 本講義では、主に経営学の領域における実証研究の方法を指導する。ただし、授業では、単に知識を増やすことを目指すのではなく、企業組織に関する研究を通じて科学的・論理的な思考能力を養うことを目標とする。			
授業の目的 本講義では、経営学における近年の研究動向を知るとともに、口頭発表、クラス討議、データ分析、レポート作成などの活動を通じて、3年次以降の演習・個別演習に必要な基礎体力を養成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①経営学においてどのような研究領域があるのか説明できる。 ②上記の領域においてどのようなことがわかっているのか説明できる。 ③調査研究のプロセス(例：テーマの選定→仮説構築→調査分析→考察→研究報告)を体験する。			
成績評価の方法と基準 ○平常点(事前課題小レポート、宿題の提出) 45%(各5点×9) ・事前課題小レポート(A4一枚1000字程度、教科書各章500字程度の要約)×6 ※報告担当者は報告資料とは別に事前課題レポートを提出すること。 ・統計データ分析に関する宿題×3 注：課題の提出を忘れた場合、翌週の授業まで提出可とするが、評価は3点満点にする。  ○担当箇所の報告25%： 報告に関する提出物、プレゼンテーションの内容、プレゼンテーションに対するコメントの内容で評価する。 報告用資料はMicrosoft WordまたはPowerPointを使用し、A4一～二枚程度で作成すること。プレゼン中、板書をしてよい。担当者は報告時、クラス全員分の資料を配布すること。  ○グループ研究30%： 準備のプロセス、プレゼンテーション、調査研究報告書の内容とする。 参考文献をまとめるだけでなく、自ら収集したデータによる分析を求める。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回：オリエンテーション：経営学における研究とは何か？ 第2回：文献輪読とディスカッション①：競争行動、トランザクティブメモリー 第3回：文献輪読とディスカッション②：見せかけの経営効果、両利きの経営 第4回：文献輪読とディスカッション③：ネットワーク理論 第5回：文献輪読とディスカッション④：個人主義と集団主義、 アントレプレナーシップ活動の国際化 第6回：文献輪読とディスカッション⑤：リアルオプション、M&A 第7回：文献輪読とディスカッション⑥：コーポレートベンチャーキャピタル、 リソースベースビュー 第8回：質問調査票の作成方法 第9回：経営データ分析①：相関分析 第10回：経営データ分析②：回帰分析 第11回：経営データ分析③：ダミー変数 第12回：グループ研究① 第13回：グループ研究② 第14回：グループ研究③ 第15回：グループ研究課題発表会			



教科書・参考書等

教科書①：入山章栄（2012）『世界の経営学者はいま何を考えているのか

—知られざるビジネスの知のフロンティア』英治出版（第2回～第7回）

教科書②：高野陽太郎・岡隆編（2004）『心理学研究法-心をつめる科学のまなざし-』

有斐閣アルマ（第8回）

教科書③：内田学・兼子良久（2013）『Excel対応 90分でわかる！日本で一番やさしい [データ分析] 超入門』

東洋経済新報社（第9回～第11回）

※①と③は購入すること。②は該当箇所を配布する。

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この講義では、毎週の事前課題レポート作成をこなすだけではなく、プレゼンテーションやグループワークへの積極的な取り組みが求められます。てっとり早く単位を取得したいと考えている方には不向きな授業ですのでご注意ください。

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 323551) プロゼミナール (繁本) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目	簿記入門、会計学総論	
	履修推奨科目	簿記入門、会計学総論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (報告準備も必要)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、財務諸表をはじめとする企業の公開情報を用いた初歩的な財務分析を行う。授業の進め方としては、授業序盤では財務分析の基本的な考え方を説明する。その後は、受講者数によるが個人あるいはグループごとに、実際に財務分析を行ってもらい。もっとも、いきなり本格的な財務分析を行うことはハードルが高過ぎるため、某大学生が行った京都企業の財務分析(学部生の成果物としては秀逸であり、書籍化されている)を手本として、それと同じ分析を地元企業を対象として行いたい。			
<b>授業の目的</b> 会計、企業、産業、経済の基礎知識を身につけた上で(DPの「知識・理解」、財務分析の実施を通じてそうした知識を課題発見・解決に応用する能力を身に付けるとともに(DPの「問題解決・課題探求能力」、自分の考えを的確に他人に伝える力を鍛えることが(DPの「言語運用能力」、本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 会計、企業、産業、経済に関する関心と基礎知識を身につける。 2. 初歩的な財務分析の手法をマスターする。 3. 分析に必要な情報を自ら探し出し、活用できる。 4. プレゼンを抵抗なく行うことができる。 5. 積極的にディスカッションに参加できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 報告の質、ディスカッションへの参加姿勢、ゼミ運営への貢献度、出席状況を総合的に評価する。高い成績評価を得るためには、積極的なディスカッション参加が特に不可欠である。なお、合理的な理由を事前に連絡しない欠席、遅刻、早退は、成績評価を著しく下げる。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1～2回：オリエンテーション、財務分析の基礎（講義中心） 第3回：分析対象企業の決定、分析に必要な情報の入手 第4～5回：企業概要の分析 第6回：発表① 第7～8回：経営戦略分析 第9回：発表② 第10～11回：財務分析 第12回：発表③ 第13～14回：独自の分析 第15回：発表④、まとめ この計画は、受講者数や実際の進捗に応じて、適宜変更する可能性がある。			
<b>【準備学習など】</b> ・本授業の軸足はあくまで会計に置くため、会計科目の学習は不可欠である。会計知識がなければ本授業の理解は困難である。また、会計以外の領域にも触れるため、企業、産業、経済に関する科目もしっかりと学習しなければならない。  ・財務分析は応用的な学びであるが、そうした学びを十分に行うためには、会計学や経営学などの基礎知識を広く深く正確に習得することが極めて重要であることを強調しておく。  ・発表回数は4回を予定している（変更の可能性もある）。このため、授業外でも相応の準備時間を割く必要がある。グループワークを行う場合は協働や調整にも時間と気を使うことになるだろう。こうした点を考慮した上で本授業を選択するか否か検討してほしい。			

教科書・参考書等

【テキスト】

授業開始時に指示する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社

高辻成彦『アナリストが教えるリサーチの教科書』ダイヤモンド社

その他適宜紹介する。参考書の購入は必須ではないが、購入する場合は最新版を勧める。

オフィスアワー 初回授業時に指定する。ただし指定時間以外であっても、事前に連絡があれば随時学習相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習形式の授業では、毎回の出席は当然の前提とした上で、受講生の積極的かつ能動的な学習姿勢が不可欠である。授業のレベルは受講生の学習姿勢次第で決まるといっても過言ではない。受講生には十分な事前準備と積極的なディスカッション参加が求められる。また、授業中の私語やスマホ等の使用をはじめ、他人の勉学の権利を害する行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳正に対処する。

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323560) プロゼミナール (向) Pre-Seminar Professional Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 向 滄	関連授業科目	経営学入門、経営戦略論、経営組織論	
	履修推奨科目	経営学入門、経営戦略論、経営組織論	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> このプロゼミナールは、受講生の主体性を重視した形で運営していきたい。受講生は経営システム学科の授業で学んだ経営学の基礎知識を用いて、企業や産業の動向を考察し理解する。また自らの問題関心に沿って、主体的に学習・研究を行う。			
<b>授業の目的</b> 企業・産業に関わるテーマの調査・研究や、レポートの執筆、発表&議論などを通じて、受講生に経営学の面白さと知的刺激を味わってもらいながら、皆さんの問題発見・問題解決能力、論理的思考力、文章表現能力および口頭発表能力を育成していきたい。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や産業の動向に対する感受性と理解力が高まる。</li> <li>・自らの問題関心に沿って、企業や産業の動向を分析することができる。</li> <li>・経営学の知識や理論を用いながら、企業・産業分析のレジュメないしレポートを書いたり、口頭で説明・発表したり、他人と討論したりすることができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> グループ研究の内容が60%、出席状況と議論への参加が30%、プロゼミ運営への貢献度が10%を目安にして、総合的に評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回： イントロダクション 第2回： 研究方法論に関するレクチャー 第3回： 論理的思考に関するレクチャー 第4～15回 グループ研究&発表&議論 (注：1回分の授業をキャリア支援センターの教員による講演会で置き換える。)			
具体的な進め方は以下の通りである。 ①グループ分けをし、各グループは研究テーマを決めて、共同調査・研究を行う。 ②各グループは研究成果を纏める。 ③パワーポイントを作成して、研究成果を発表する。 ④受講生全員でディスカッション・質疑応答を行う。  *進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合がある。			
<b>教科書・参考書等</b> 講義の際に適宜紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 皆さんが積極的に授業にコミットすることを期待します。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 323550) プロゼミナール (朴鏡) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	簿記原理、会計学総論	
	履修推奨科目	管理会計論	
学習時間 演習90分×15回＋自学自習			
授業の概要 このゼミナールでは、会計の入門的要素を理解し、会計情報から何が分かるのか、またどのように読み取ったらいのかについて学びます。			
授業の目的 文章表現能力・口頭発表能力などのスキルを身につける (DPの「言語運用能力」に対応) とともに会計情報の役割と機能を理解できること (DPの「知識・理解」に対応) を目的とします			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 会計の基礎知識を得ることができる。 2. 会計情報を用いた経営分析ができる。 3. 会計の役割について理解を深めることができる。			
成績評価の方法と基準 事例研究報告 (または研究発表)、練習問題、レポート等により評価します。 詳細については初回の授業で説明します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 少人数を対象にした授業であるため、講義のように担当教員が一方的に話すのではなく、教員と学生、又は学生同士が話し合いながらテキストを中心に授業を進めていきます。			
<p><b>【授業計画】</b></p> 第1回 インTRODクション 第2回 会計の役割と会計学 第3回 会計の歴史 第4回 簿記と会計の仕組み 第5回 会計の制度 第6回 会計情報の活用 第7回 貸借対照表の見方 (資産) 第8回 貸借対照表の見方 (負債・純資産) 第9回 損益計算書の見方 第10回 キャッシュフロー計算書の見方 第11回 経営分析の方法 第12回 原価計算 第13回 管理会計 第14回 監査 第15回 税務会計 <p><b>【自学自習について】</b>  会計に関する予備知識は必要ではありませんが、授業の前にテキストの各章を事前に読んでおくことが必要です。また、各章の学習内容が理解できたかを練習問題 (選択問題や用語の穴埋め問題) で確認します。</p>			
教科書・参考書等 小栗崇視・石川祐二・森田佳宏・北口りえ『スタートガイド会計学』中央経済社、2018年 (2,200円＋税、生協にて購入可能)			
オフィスアワー 月曜日13時～14時の間、朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業計画は、授業の開始時点での予定であり、開始後の進捗状況により変更する場合があります。			

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323540) プロゼミナール (松岡) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営管理論, 経営組織論, 経営戦略論	
	履修推奨科目	経営組織論, 経営戦略論, 人的資源管理論, 調査データ分析 I	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では, これまでに学んだ経営学諸領域の理論や知識を用いながら, 現実のビジネスを取り巻く諸課題についてゼミナール形式で検討する. 今年度は地域企業の事業創造をテーマとしてとりあげる.			
<b>授業の目的</b> ゼミナール形式での討議を通して, 地域企業の事業創造についての理解と洞察を深める. また, グループ単位で課題を設定し, 調査と分析を行い, それらについての報告を行う. これらの活動を通して, 問題発見能力, 問題解決能力, 文章表現能力, 口頭発表能力の向上を目指す (学士課程のDP「問題解決・課題探求能力」に対応).			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
専門分野の基礎に関わるレジュメないしレポートを書くことができる. 専門分野の初歩的なプレゼンテーションができる. 専門分野の初歩的な討論ができる.			
<b>成績評価の方法と基準</b> 受講態度, 討議への貢献度, 課題レポート, 調査プロジェクトの進捗状況等に基づいて総合的に判断する.			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【講義計画】</b> 1. イントロダクション 2～8. 報告者によるプレゼンテーションと全体での質疑 9～14. 調査研究の実施と進捗報告 15. まとめ  <b>【自学自習に関して】</b> テキスト, 資料を精読してから出席してください. また調査プロジェクトの開始後はチームメンバーで協議し, データの収集・分析, 報告書類の作成にあたってください.			
<b>教科書・参考書等</b> 山田幸三・忽那憲治 (2016) 『地域創生イノベーション—企業家精神で地域の活性化に挑む』中央経済社 (2700円/生協で販売)			
オフィスアワー 火曜日・4限目			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 無断遅刻・欠席は厳禁. 事前準備を入念に行い, 質の高い討論を行い, 有意義なゼミ運営を目指しましょう. 演習活動の一環として, 学外での調査活動等を伴う場合があるため, 保険 (学研災・学研賠あるいは同等のもの) 加入をしておくことが受講の条件となります.			

ナンバリングコード B4BSN-bceE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323548) プロゼミナール (宮脇) Pre-Seminar 社会と私のフラクタル (自己相似) な 関係	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目		
	履修推奨科目 会計学・経営学関連の授業科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
授業の概要 このゼミナールの目標は、個人のコンピテンシー、特に、コミュニケーション能力、自己表現能力およびプレゼンテーション能力を高め、様々な「人間力」を成長させるきっかけ作りをすることです。			
授業の目的 「社会」と「自分自身」をフラクタル(自己相似)な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技法・マナーなどを、仲間との相互作用を通して身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
個人のコンピテンシー (特にコミュニケーション能力、自己表現能力およびプレゼンテーション能力) を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。			
成績評価の方法と基準 (1)出席 (原則: 毎回)、積極的な参加態度 (2)個人のコンピテンシーの向上度			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>[授業の方法] まず、毎回、ストーリーテラーとして、各自の1週間の出来事の中から面白い話をしてもらい、表現力を高めます。次に、香川県をホームとするサッカーチームの「カマタマーレ讃岐」のボランティア活動に参加します。また、ボランティアの経験などをもとに、カマタマーレ讃岐とともに共同企画や提案を考え、それをプレゼンテーションします。最後に、「働く理由」をテーマにグループディスカッションします。</p> <p>[授業計画 (予定)]  (第1週) ガイダンス  (第2週) 打ち合わせ会議 (カマタマーレ讃岐の関係者との打ち合わせ会議を体験します)  (第3～6週) カマタマーレ讃岐のボランティア活動への参加 (日程調整をして日曜日に2～3回参加します (授業はお休みです))  (第7週～11週) プレゼンテーション (グループ別に企画や提案を考え、プレゼンテーションの準備を行い、実際にカマタマーレ讃岐の関係者・4年生・3年生とともにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション能力を高めます。)  (第12～14週) グループディスカッション (4年生・3年生も参加し、グループ別に、ディスカッションでの話し方、進め方などを学び、自己表現力を高めます。)  (第15週) 360度ミーティング (私を含め、カマタマーレ讃岐の関係者、4年生・3年生から多角的にアドバイスをを行います。)</p> <p>[自主学習に関するアドバイス]  (第2週) 事前にカマタマーレ讃岐のHPを見て調べたり、会議ではメモをしっかりとるようにしましょう。  (第3～6週) よりカマタマーレ讃岐の知識を増やすとともに、ボランティア活動を通して、いろいろな人と協働する体験を楽しみましょう。  (第7週～11週) グループ別に集まって、調べたり、資料を作成したりするなど、プレゼンテーションの準備をしましょう。  (第12～14週) テキストとディスカッションイシュー (問題) を配布するので、テキストを読み、ディスカッションイシューに答えられるように準備してきましょう。  (第15週) 今の自分がどのように見られているかを、しっかり聞いてみましょう。</p>			
教科書・参考書等 随時指定			
オフィスアワー 水曜日15:30～17:00 (会議などでいない場合もある)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ まじめに授業や課題に取り組み、仲間と協働作業を行うことができること。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 323533) プロゼミナール (安井) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 3年次に履修する演習の予備段階として、保険および保険にかかわるテーマについてレポートの作成や口頭発表を行う。			
授業の目的 問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力の育成を目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
専門分野の基礎に関わるレジюмеないしレポートを書くことができる。 専門分野の初歩的なプレゼンテーションができる。 専門分野の初歩的な討論ができる。			
成績評価の方法と基準 出席状況, 発言, レポートの内容, グループ報告の内容			
授業計画並びに授業及び学習の方法 まず、指定された課題について担当者を決め、その担当者がレジюмеを作成した上で報告する。担当者を含め、全員が前もって課題をレポートにまとめ、それをもとに討論を行う。 課題は現在のところ6回を予定しているが、参加人数により増減する。 課題を終了した後は、グループ毎にわかれ、それぞれが選んだ問題について調査・発表し、それに基づく討論を行う。  第1回 ガイダンスおよびグループの決定 第2～3回 第1回テーマに関する報告と討論 第4～5回 第2回テーマに関する報告と討論 第6～7回 第3回テーマに関する報告と討論 第8～9回 第4回テーマに関する報告と討論 第10～11回 第5回テーマに関する報告と討論 第12～13回 第6回テーマに関する報告と討論 第14～15回 グループによる報告と討論			
教科書・参考書等 教科書および最初の課題については、第一回のガイダンスにおいて指示する。 適宜、指示する。			
オフィスアワー 火曜日4時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 無断欠席および発表時の欠席は厳禁とする。 2. 毎回、必ず発言しなければならない。 3. 教育的効果を高めるために、授業計画を若干変更する場合がある。			



ナンバリングコード B4BSN-cbeE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 323568) プロゼミナール (渡邊) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 渡邊 孝一郎	関連授業科目	流通システム論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 地域商業にかかわるテーマについての探求・分析能力、他者とのコミュニケーションを介した問題解決能力を身につけるための演習を行う。			
授業の目的 本演習では、地域商業を取り巻く環境や課題についての分析をグループワークで行うことにより地域課題の分析能力を鍛えることを目的としている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域商業が抱える課題について分析ができる。</li> <li>・自分自身の意見・主張を論理的に他社に伝えることができる。</li> <li>・課題解決のコミュニケーション能力を身につけることができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 発表資料と発表内容40% ディスカッションへの貢献度30% 演習自体への積極的参加度30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回：イントロダクション～講義概要とコミュニケーション～ 第2回～9回：グループごとの研究テーマに関する研究計画作成・調査・分析・考察・中間発表 第10回～15回：グループごとによる成果発表・ディスカッション			
教科書・参考書等 必要に応じて、資料を配布する。			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 進行状況に応じて授業計画を変更することがある。私語など、他の受講者の迷惑になるような行為は慎むこと。また、グループによる活動であるため、積極的な参加を求む。			

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 333493) プロゼミナール (金澤) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目	グローバル社会概論、比較近代化論	
	履修推奨科目	ヨーロッパ文化論、外国語演習	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 2019年は瀬戸内国際芸術祭が開催される。この授業では、経済的効果や地域活性化との関連で芸術祭を扱うだけでなく、芸術作品そのものを鑑賞するための基礎力も養う。瀬戸内国際芸術祭の総合ディレクターの著書を輪読する。瀬戸内国際芸術祭に出展されている個々の作品を実際に鑑賞し、自ら批評し、それについてディスカッションを行う。また、金澤の出身地である新潟県十日町市の「大地の芸術祭」と「瀬戸内国際芸術祭」の比較も行う。			
<b>授業の目的</b> 芸術は、何がどう良いのか分かりにくく、また自分の趣味に合っていたとしても、そのことについて言葉で説明するのは難しい。また、芸術と地域社会の関連性も、にわかには分かりにくい。この授業では、大地の芸術祭および瀬戸内国際芸術祭について論じている書物を教科書にして、歴史・文化・社会・経済・政治の文脈のなかで芸術と地域社会との関係について学び、地域の人間のつながりを取り戻す方法について考える。口頭発表と討論を通じて、他者の意見に耳を傾け、自分の感覚や思考について適切な言葉で表現する能力を養う。なぜ芸術作品に多くの人が惹きつけられ、わざわざ山間部や離島に足を運ぶようになるのかをよく理解し、そのうえで芸術祭との関わり方を自ら考えることができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
教科書の輪読を通じて、文章を正確に読むことができる。書物のタイトルのつけ方、章立て、段落構成、キーワードの設定について理解することができる。自分で発表したりレポートを書いたりする時に応用することができる。他の人の発表をしっかりと理解し、それについて学生どうして議論できる。感性的なものについて、適切な言葉で論理的に説明することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 平常点(輪読・発表・議論) 40%、中間レポート30%、学期末レポート30%、以上から総合的に評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> (1) イントロダクション(この授業の概要、成績評価、等) (2)~(4) 作品の鑑賞 ※場合によっては全員で現地へ行く。 (5)~(8) 教科書の輪読 (9) 発表の仕方の説明 (10)~(14) 口頭発表および討論 (15) まとめ レポート提出  <b>【授業及び学習の方法】</b> 授業中はメモを取りながら積極的に参加する。教科書の各章を要約する。授業時に紹介される参考書などは事前に読んでおく。			
<b>教科書・参考書等</b> 北川フラム、『ひらく美術——地域と人間のつながりを取り戻す』、筑摩書房(ちくま新書)、2015年、820円+税。 ※授業開始までに購入しておくこと。			
オフィスアワー 木曜5時限目。ただし事前に相談すること。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 履修を希望する人は実際に2019瀬戸内国際芸術祭に足を運んで作品を鑑賞し、感想を書き留めたり写真を撮ったりしておいてください。 春会期: 4月26日(金)～5月26日(日) 夏会期: 7月19日(金)～8月25日(日) 秋会期: 9月28日(土)～11月4日(月)			

ナンバリングコード B4GE0-cdeE-30-Eb2 授業科目名 (時間割コード: 333492) プロゼミナール (西成) Pre-Seminar まちづくり・デザイン入門	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eb	単位数 2	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目	まちづくり論、地域活性化プロジェクト	
	履修推奨科目	観光・地域振興コース関連科目	
学習時間 ゼミ90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> プロゼミでは、少し先の未来のこと、次の社会で求められている「暮らし方」「コミュニティ」に焦点を当て、皆で議論し、体験し、研究をしていきます。  現在、日本は人口減少社会に突入し、これまでのような人口増加を前提とした社会システムが立ち行かなくなっています。これからは人口減少・人口停滞の社会を前提とした社会システムへの変更が余儀なくされており、現在はその移行期といえます。 プロゼミでは、こうした移行期にある人々の価値観（豊かさ）の変化に着目します。いま、地域づくり・まちづくりの現場に立っていると、これまでの規模拡大社会の「豊かさ」とは異なる、新しい感覚の「豊かさ」が求められていることに気が付きます。そうした価値観の変化の萌芽を読み取り、持続可能な地域社会の仕組みづくりについて考えていきます。			
<b>授業の目的</b> ①プレゼン・ディスカッション能力を身につける ゼミでのプレゼンやディスカッションを通じて、社会人に求められる「他人に伝える」「他人と議論する」能力を鍛えます。  ②地域の問題解決に向けて「企画力」を身につける 公務員であっても民間企業であっても、学生自身がどんな活動にどのように取り組んだのかが問われます。地域の活性化や環境保全に関わる仕事に就くためには、現場での経験に裏打ちされた創造性（クリエイティビティ）が必要です。まずは現場を知る“気づき”から始めましょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①人前で論理的かつ直感的にプレゼンテーションができる ②グループで円滑にディスカッションができる ③まちづくり分野の基礎的な知識を習得できる			
<b>成績評価の方法と基準</b> ゼミへの参加度（意欲・主体性）と成果物の充実度により評価します。 無断での遅刻、欠席は減点対象。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業形式】</b> ①反転授業（学生がテキストをもとに講義） ②グループディスカッション ③フリーレクチャー（学生が講義内容を企画する形式） ※プロゼミで使用するテキスト（文献）は自費で購入すること（1000円程度）  <b>【ゼミ内容】</b> 集まった学生メンバーの個性でゼミ内容は変えていきたいと思っています。 ここには、主に昨年までにやった内容を記します。  <b>①反転授業</b>  学生をチーム分けし、テキストの章ごとに担当チームを決定。 学生は各週ごとにテキストを熟読し、担当となるチームメンバーは講師役となって講義を行います。 学生の理解力を深めるためにはどうすればいいのか、それぞれのチームごとに工夫をこらします。  <b>②グループディスカッション</b>  求められていることはテストで解答するための知識をつけることではなく、他の人に自分の考えを述べたり、他の人の意見を受けて、当初は思いもつかなかったアイデアを提案できる能力です。 そのためには、ディスカッションをする訓練が必要です。			

③フリーレクチャー

集まった学生達で共通する興味関心や問題意識を抽出します。  
これまでに、「名刺作成ワークショップ」「地域食プレゼン大会」「情報発信デザインコンペ」を実施しました。

第1回 ガイダンスと自己紹介  
第2～14回 プレゼン・ディスカッション形式のゼミ  
第15回 まとめ

各プロジェクトで必要となる文献や情報を各自で自学自習する必要があります。

教科書・参考書等  
ゼミのなかで適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜13時～14時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
まちづくりや地域振興に強い関心をもつ学生はぜひ受講してください。

ナンバリングコード B4BSN-cadE-20-Ef2 授業科目名 (時間割コード:333495) プロゼミナール(古川) Pre-Seminar	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cadE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目	環境システム論、資源エネルギー論、 商品システム論、商品実験	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では、地域活性化に取り組む現場に実際に出向き、地元住民との交流を通じて、その地域に適した地域活性化のあり方について考えていきます。なお、この授業のフィールドについては、仏生山町(香川県高松市)など香川県内外数カ所を取り上げ、その活性化について考えます。			
<b>授業の目的</b> ①フィールドワークを通じて、積極性と協調性を身につける。 ②フィールドワークを通じて、コミュニケーション能力を身につける。 ③フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力を身につける。 ④フィールドワークを通じて、問題の発見と分析、および解決のプロセスを身につける。 ⑤フィールドワークを通じて、地域活性化の現状と課題について、自分の考えをまとめる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①仲間と協力して積極的に活動できる。 ②地域の人たちや仲間と円滑にコミュニケーションできる。 ③地域の人たちや仲間の前でプレゼンテーションできる。 ④自ら問題を発見し、その解決方法を考えることができる。 ⑤地域活性化の現状と課題についてについて、自分の考えを述べるができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末テストおよび小テストは行いません。計4回のフィールド調査およびその前後の検討・報告への出席状況により単位を認定します。成績評価については、検討・報告の内容と積極性をみて評価します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第01回：授業のガイダンスおよびグループ分け 第02回：フィールドについて事前調査および報告 第03～04回：第1回フィールド調査(於：仏生山町など 時期：10月) 第05回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第06～07回：第2回フィールド調査(於：仏生山町など 時期：11月) 第08回：第2回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第09～10回：第3回フィールド調査(於：仏生山町など 時期：12月) 第11回：第3回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第12～13回：第4回フィールド調査(於：仏生山町など 時期：1月) 第14回：第4回フィールド調査の報告 第15回：まとめ  なお、この授業はフィールド調査を含むため、授業回数は教室で計7回、仏生山町などで計4回を予定しています。なお、状況により、対象とするフィールドを変更する場合があります。			
<b>【授業方法】</b> フィールドワークを行います。フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しません。 参考書は随時指定します。			
オフィスアワー 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 仏生山町などでの活動は、場合により、土曜日・日曜日に行うことがあります。了承のうえ、受講してください。学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。			

ナンバリングコード B4SCL-abcE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 333485) プロゼミナール (水野) Pre-Seminar アメリカ合衆国の政治と経済	科目区分	時間割 後期木5	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目	異文化間コミュニケーション論, 外国語演習 (英語)	
	履修推奨科目	アメリカ社会論	
学習時間 講義90分 x 15回 + 自学自習			
授業の概要 現代アメリカの政治と経済について学びます。与えられたテーマについて、グループで調査したことを発表し、ディスカッションを行います。最終的に、各自のゼミレポートをまとめて報告書を作成します。			
授業の目的 グローバルコミュニティの形成に大きな影響を持ち続けているアメリカ合衆国について学ぶことにより、国際社会の動きを理解するための知識を身に着ける。また、時事英語の学習を通して、英語コミュニケーション力の育成をめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカの政治・経済について学んだ知識をアメリカ国内外の社会情勢の理解につなげることができる。</li> <li>・アメリカ社会および国際社会についての読解力を中心に、英語コミュニケーション能力を高める。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 授業内のテーマ発表、討論の内容 (70%)、および期末レポート (30%) による。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業は演習形式で、学生の発表と討論を中心に進めていく。 第1回…ガイダンス 第2～5回…アメリカ社会についてのテーマ別発表 (歴史、政治、経済、民族、宗教などから複数のテーマを設定する) 第6回～12回…アメリカの時事問題 (テレビニュースや新聞記事などからトピックを選択し、調査、報告および討論を行う) 第13回～第15回…最終レポートに向けての調査およびプレゼン			
教科書・参考書等 参考書については、授業内で適宜指示する。			
オフィスアワー 木曜3校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 英語および現代アメリカ社会に興味関心の高い学生の受講を期待します。			